

連携のあり方-②: 実践編



Optim's-pt
(オプティムズ プロジェクト)

代表 上原 久

この講義の目的 【前回の確認】

【目的】

「連携」というキーワードは頻繁に使われる言葉です。
しかし、その概念は多義的で、様々な場面で「連携」という言葉が使われています。

この講義では、「個別支援」の観点から連携の理念と実践を整理し、「連携のあり方」について考えます。

【講義内容】

1. 連携のあり方-①: 理念編
2. 連携のあり方-②: 実践編

「連携」と「協働」の概念整理

《連携》

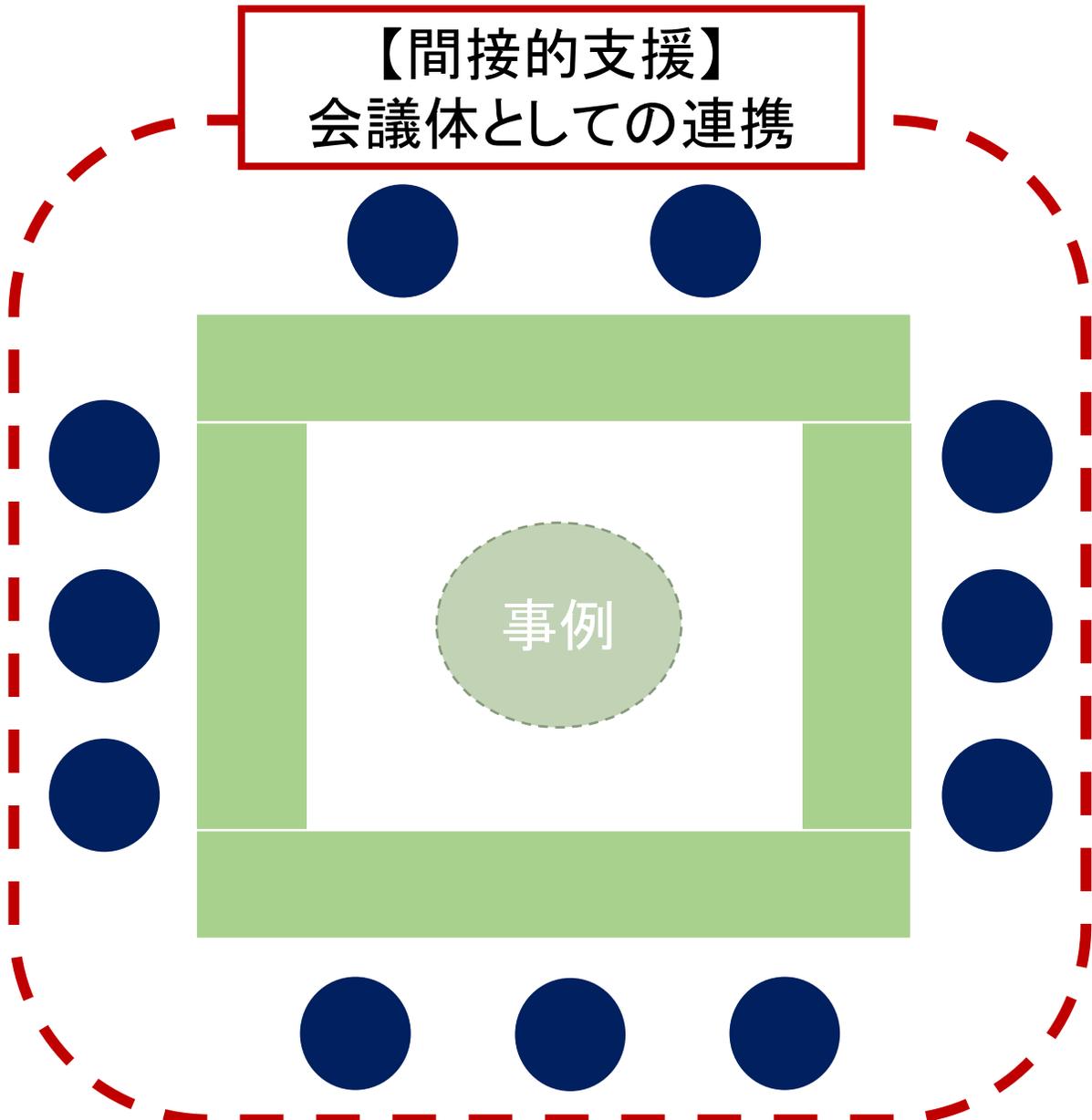
《協働》



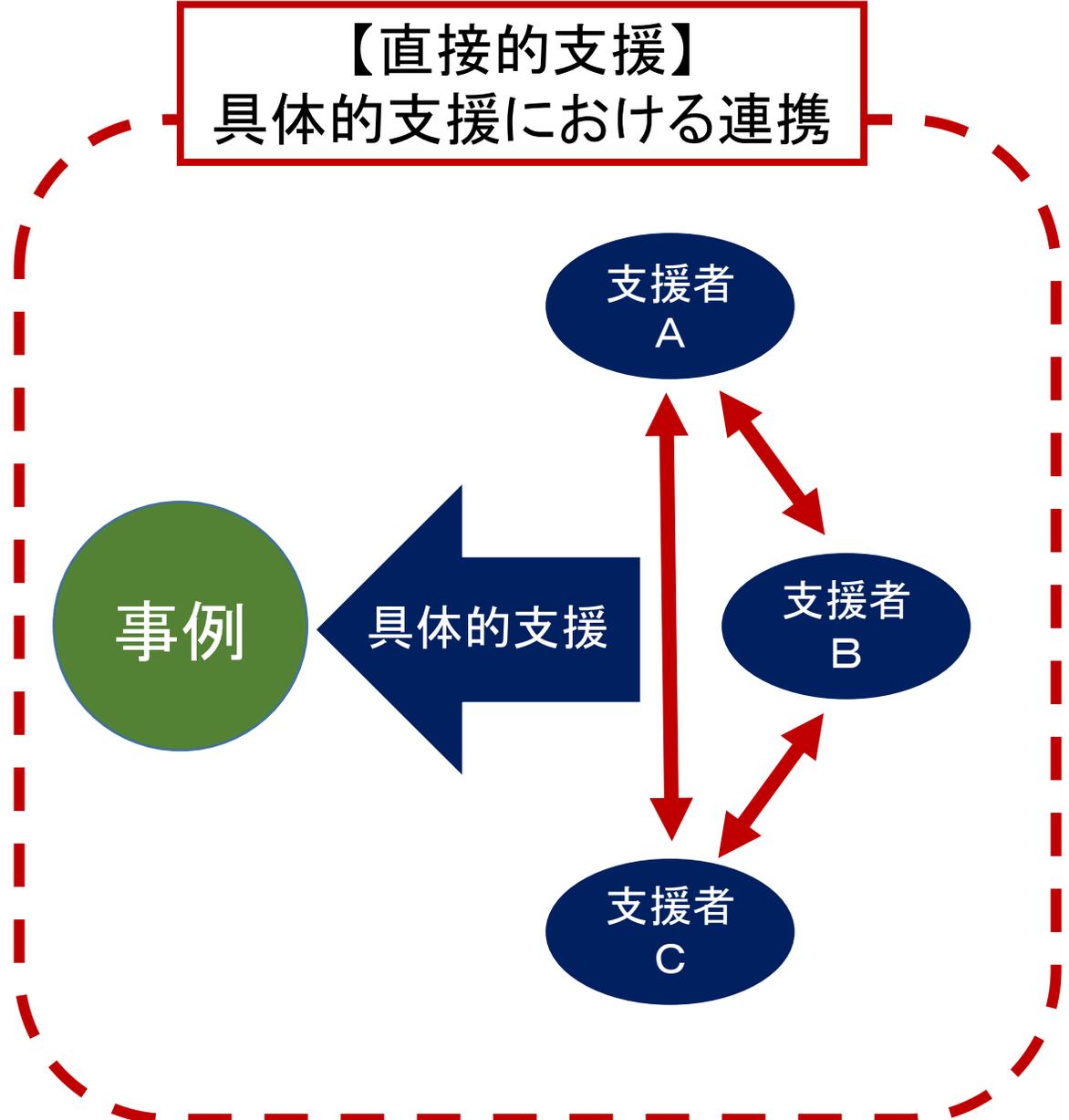
構成員：所属機関の看板を背負った特定の職種（人）

個別支援：間接的支援と直接的支援

【間接的支援】
会議体としての連携



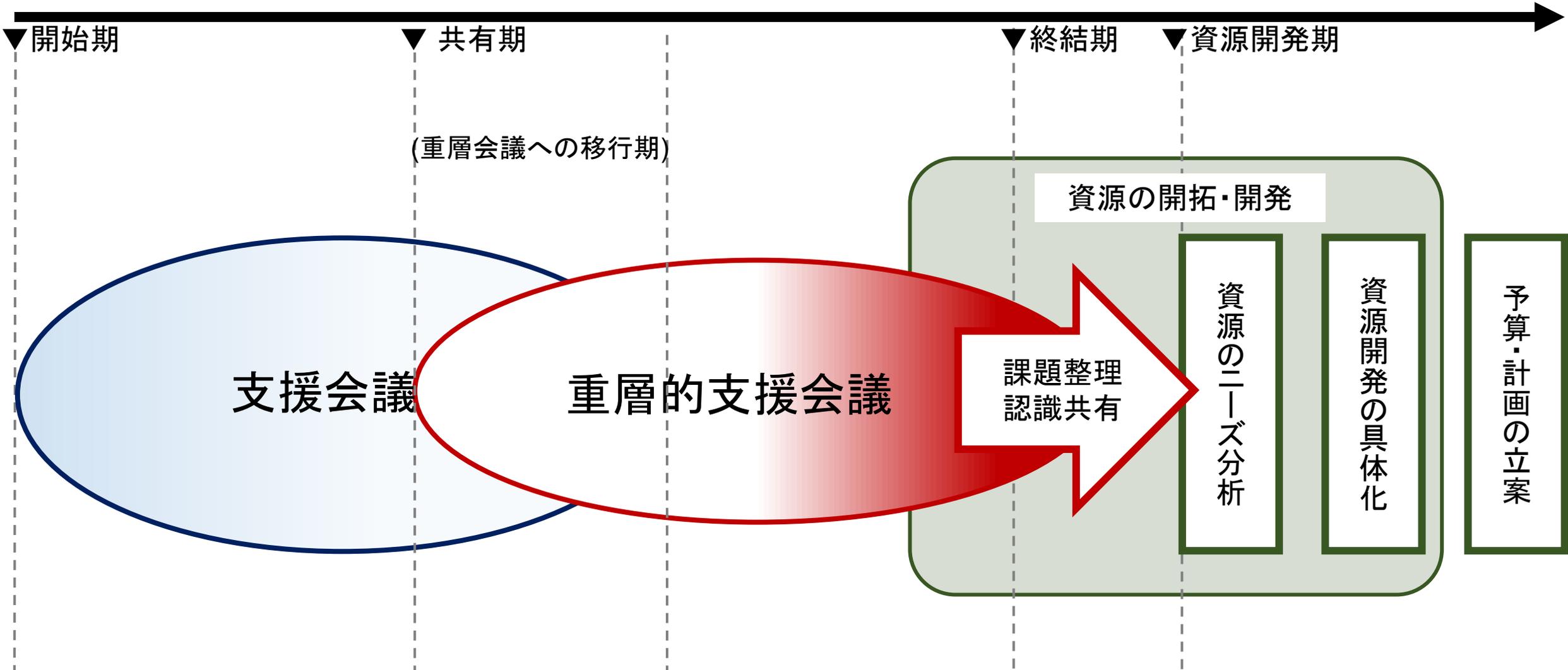
【直接的支援】
具体的支援における連携



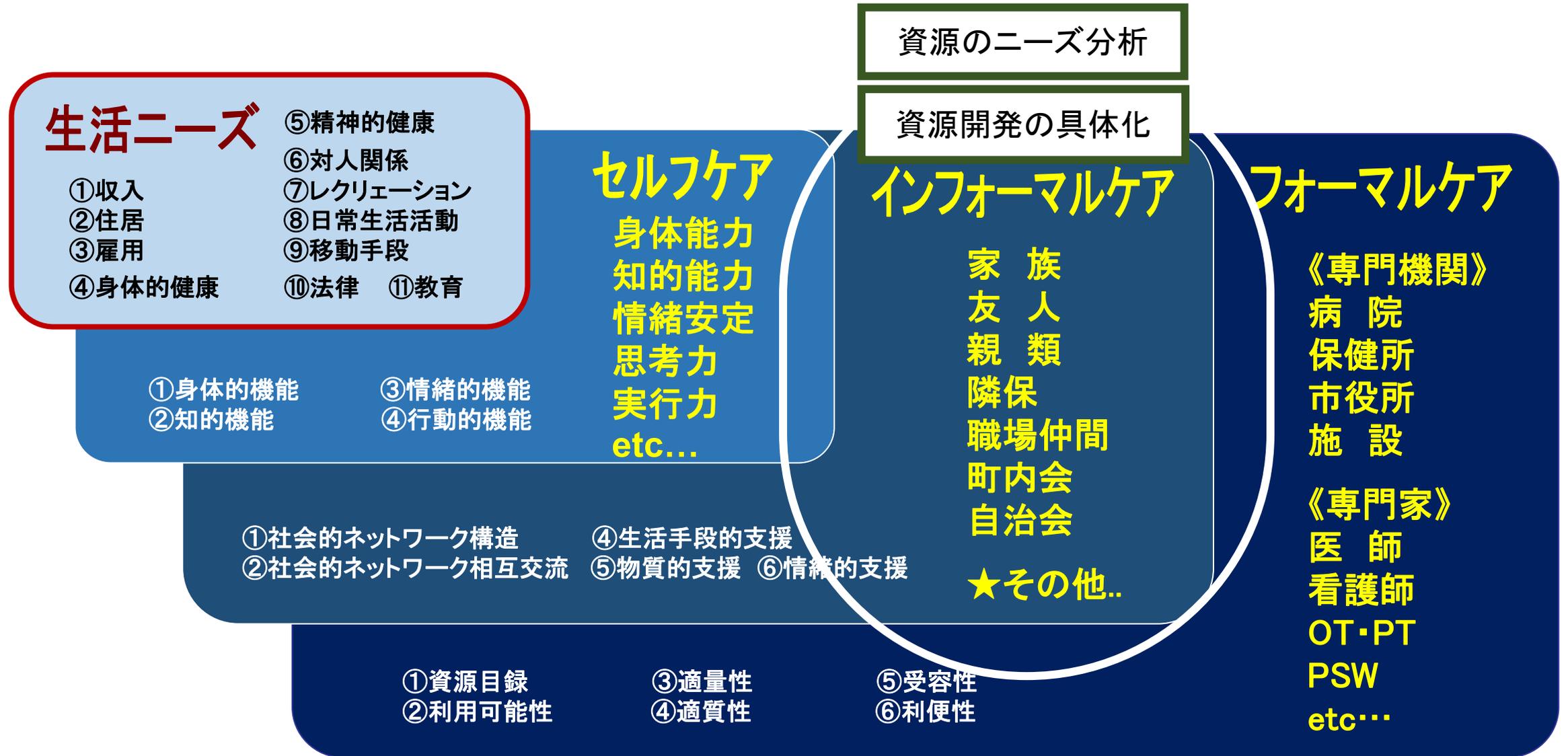
重層的支援会議の目的・役割 + 社会資源の開拓・連携

①プランの適切性協議、②プランの終結時評価、③資源把握と開発に向けた検討

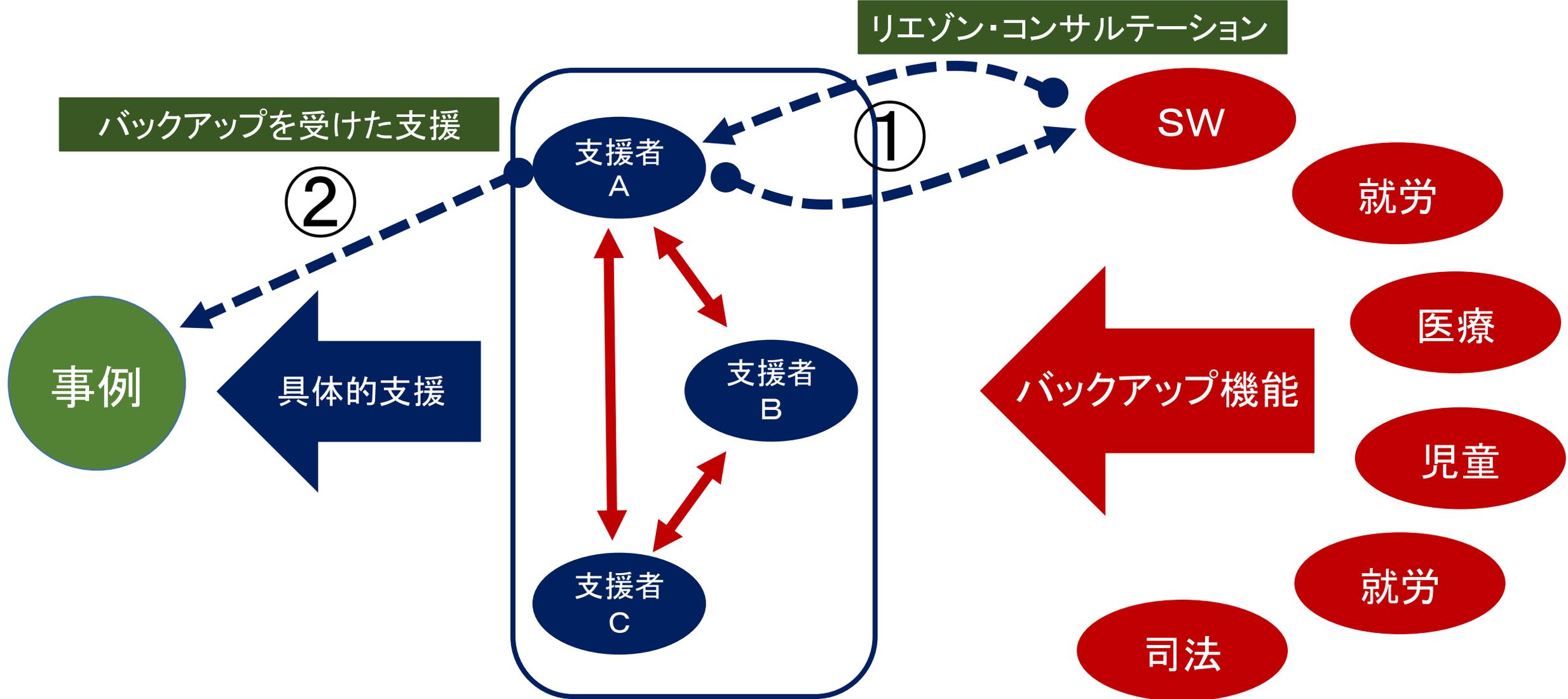
支援経過



インフォーマル資源の連携：発掘・開拓・連携

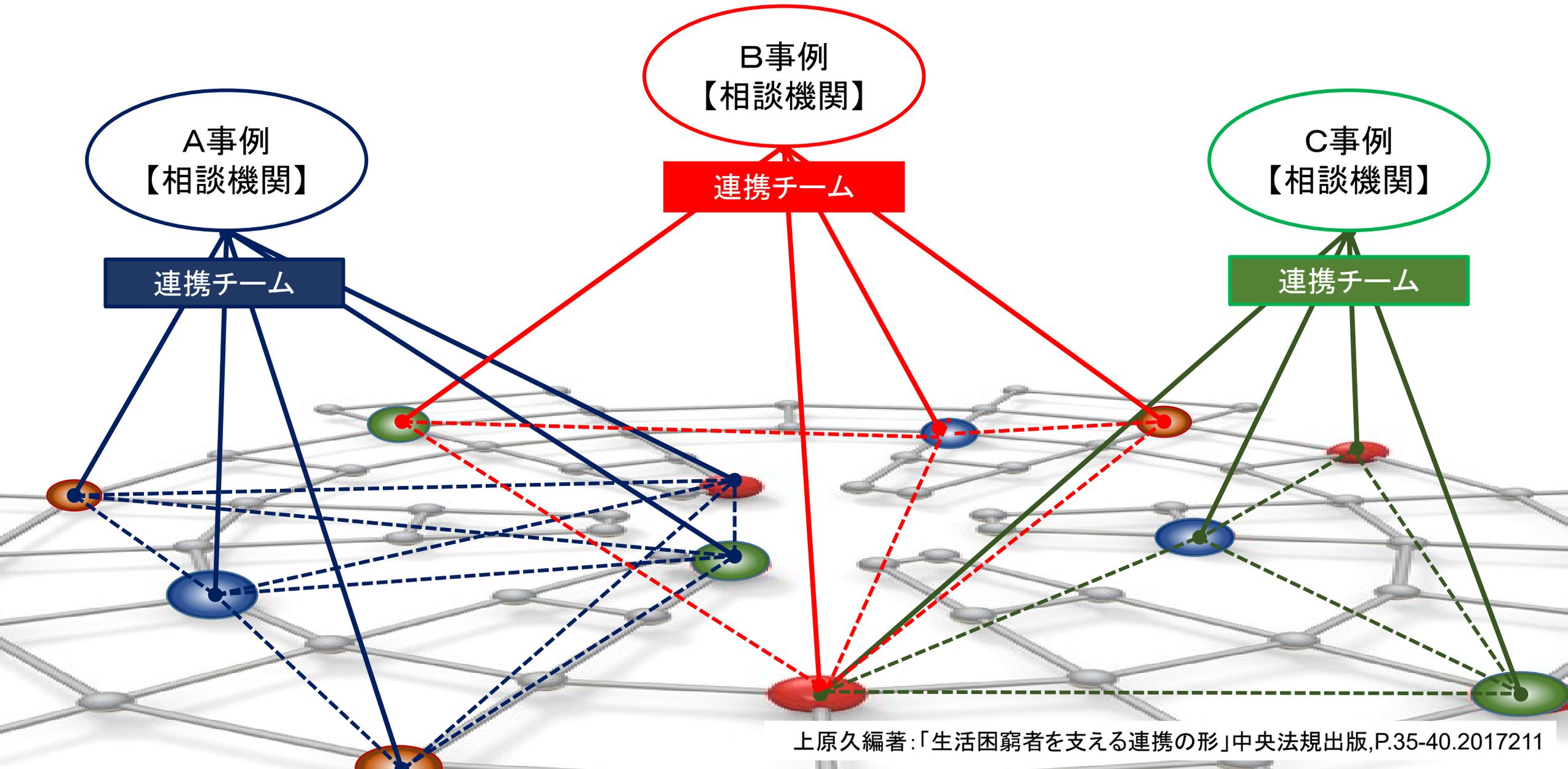


フォーマル資源の連携:「リエゾン・コンサルテーション」という考え方

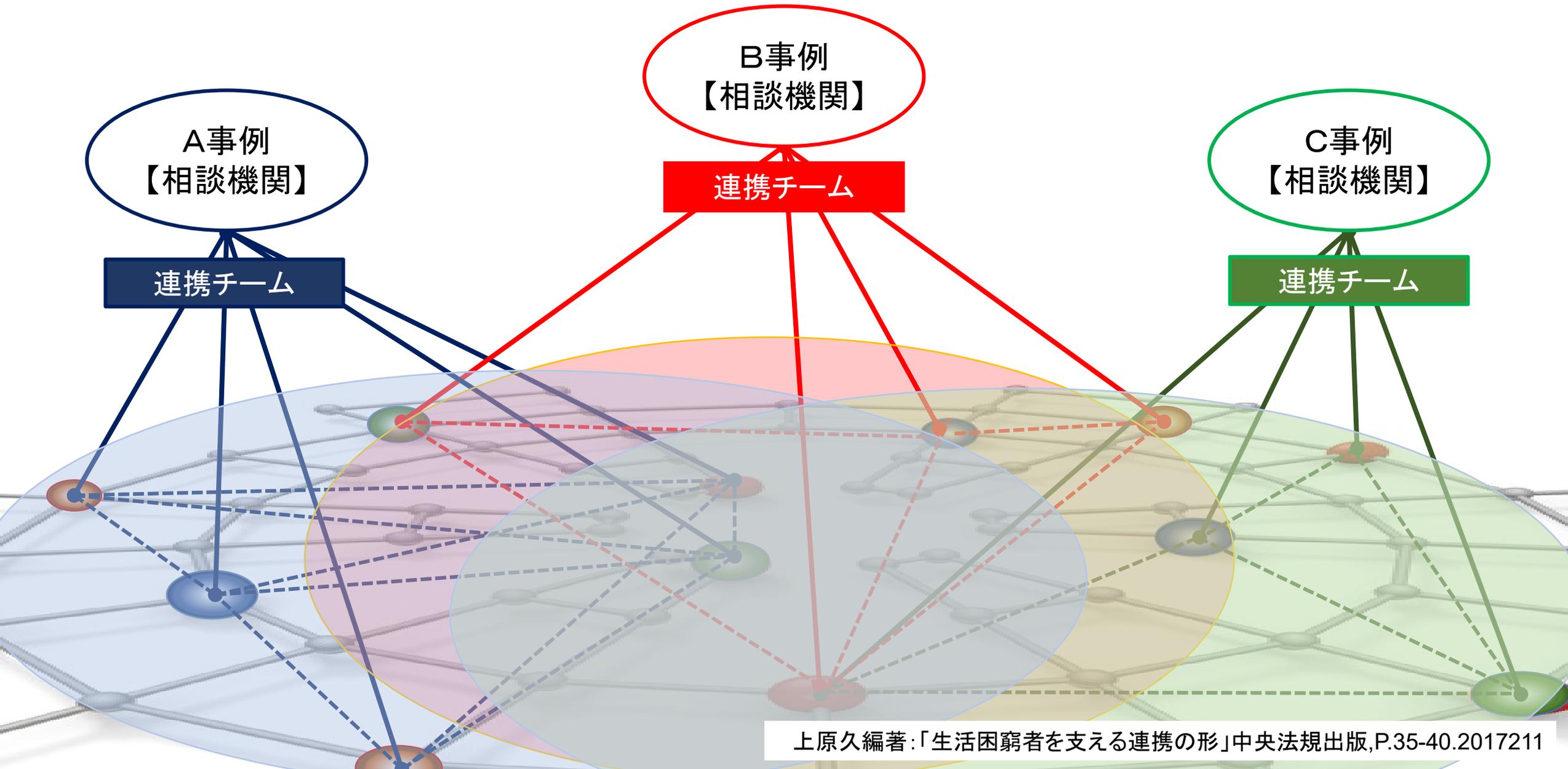


①具体事例のイメージを共有。一般論ではなく、個別具体的な支援策を提示。②バックアップによる具体的支援を展開。
※情報の精度が高いため、会議の時間枠では収まらないことも ⇒ 個別に時間を設定 ⇒ 後の会議体で支援の進捗を共有。

「社会資源化」の視点：あらゆるモノ(有形・無形)が社会資源



「社会資源化」の視点：地域の資源を「面」で捉える



連携する際のポイント整理

No	項目	ポイント	備考
1	会議体の機能	<ul style="list-style-type: none"> ①プランの適切性協議 ②プランの終結時評価 ③資源把握と開発に向けた検討 	<p>(共有を前提とする項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①アセスメントの妥当性評価 ①-1.プランの微修正・変更・保留・中止
2	ベクトル合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ①顔合わせ ②波長合わせ ③呼吸合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ①顔の見える・価値観を…関係の形成 ②具体事例の「価値」の共有 ③支援の提供タイミング (スタートorバトンを渡すタイミング)
3	観察ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ①観察ポイントの同定(どこを・何を) ②観察起点の特定(いつから) ③支援の中の「小さな変化」 	<ul style="list-style-type: none"> ①支援成果の評価 ②終結時の評価 ③資源開発の検討 <p style="text-align: right;">} 根拠</p>
4	3つの共有	<ul style="list-style-type: none"> ①情報の共有 ②価値の共有 ③判断の共有 	<p>事前に共有できるものもあれば、支援途上で見えてくるものも多い。 タイムリーで、こまめな情報交換が必要</p>

連携のあり方-②:実践編 まとめ

- 1.「連携」と「協働」の整理
 - 2.間接的支援と直接的
 - 3.重層的支援会議の目的・役割 + 社会資源開拓・連携
 - 4.ケアシステム論
 - 3.リエゾンコンサルテーション
 - 4.「社会資源化」の視点:あらゆるモノが社会資源になる
 - 5.地域の資源を「面」で捉える
 - 6.連携のポイント:ベクトル合わせ・観察ポイント・3つの共有
-